

リスボン総会迫る

ISOの社会的責任に関する作業グループ(WG SR)の第3回会議が、2006年5月13日から19日まで、ポルトガル品質協会とポルトガル企業倫理協会の共催により、リスボン会議センターにおいて開催される。規格策定タスクグループ(TG4-6)は、バンコクの総会以降、バンコクで合意された規格仕様書に基づき、ISO 26000の第1次作業原案(WD1)の作成作業を行ってきた。提案されているリスボン総会の目的は、1)リスボン総会后に第2次作業原案(WD.2)を作成するため、第1次作業原案(WD.1)に関して寄せられた多数のコメントを解決すること、2)規格策定作業へのさらなる参加を促すことに加えて、プロセスの責任や信頼性を高めるために、作業グループの手続き的な枠組みを進展させることである。リスボン総会はSR規格の完成に向けた動きに大きな役割を果たすことになろう。

WG議長からのメッセージ

持続可能な発展の概念は30年来叫ばれているが、これは永続的に変化していく社会のことである。社会と世界の改善貢献すべく、社会の役割と責任の再検討を行う社会が増えている。しかし、本当のチャレンジは、まだこの先にある — 社会的不公正や資源の枯渇が無い、グローバル経済の持続可能な発展である。この方向に正しく向いたイニシアティブやツールの数が増加しているが、ISO 26000 ガイドンス規格はこの状況にISOの張りめぐらされたネットワークを通じて貢献することになるであろう。数多くの国とリエゾン組織が参加していることに加えて、ISO 26000のマルチステークホルダープロセスは多くの点で独特である。この点こそがこの規格が本課題にチャレンジする上で役立つバックボーンである。これまでに開催された二回のWG SR会議(サルバドール総会とバンコク総会)では、ISO 26000の開発プロセスの導入に焦点を当てることに成功した。近く開催されるリスボン総会では、WG SRへの参加とコミュニケーションなどをめぐるプロセスの開発も引き続き話し合われるが、規格作成に更に重点が置かれることになる。この会議の全体の目的は、現在の第1次作業原案に関して寄せられた専門家のコメントに対応することであり、現在、規格策定タスクグループによって、膨大な準備作業が実施されている。今回の会議は、多くのステークホルダー・グループと多国の専門家間での関係及び合意の構築をめぐるものとなる。この作業グループは小さなコミュニティであるが、社会的責任に関するコンセンサスを得ることが可能であるということを大きな世界に示すまたとない機会となる。

リスボンでお会いすることを楽しみにしています。

ジョージ・カジャゼイラ(議長)

スタファン・ソダーバーク(副議長)

暫定的な予定表

2006年5月のリスボンでのWG 社会的責任会議のスケジュール

日時	会議
5月13日、土曜日	SRに関するワークショップ—途上国
5月14日、日曜日	SRに関するワークショップ—途上国 公開ワークショップ(すべてのWG SRメンバー向け) 議長諮問グループ
5月15日、月曜日	WG SR 総会 タスクグループ
5月16日、火曜日	特別ドナー会議(TG1) 議長諮問グループ
5月17日、水曜日	WG SR 総会 合同会議タスクグループ 1、2
5月18日、木曜日	合同会議タスクグループ 4、5、6 議長諮問グループ
5月19日、金曜日	WG SR 総会

フランス語国際セミナー「持続可能な発展のための標準化と社会的責任」

2005年12月13日－15日、モロッコ、マラケシュ

IEPF(フランス語圏エネルギー・環境研究所)とモロッコ水質環境地域計画省は、持続可能な発展における技術革新のための国際資源センター(CIRIDD)の後援により、持続可能な発展のための標準化と社会的責任に関するセミナーを2005年12月13日から15日までマラケシュで開催した。

このセミナーは、アフリカ、北アメリカ、ヨーロッパ、カリブ海諸国11カ国のおよそ80名の代表を集めた：各国の行政機関、地方コミュニティ、国際開発機関、ISO、企業、労働組合、研究機関、消費者、NGOの各代表が参加。

マラケシュでの作業の最後に、このセミナーに出席した各国及び各組織の代表は、次のようなことを確認した：

⇒彼らは、各国の持続可能な発展戦略の実施のために、持続可能な消費と生産(SCP=Sustainable Consumption and Production)を含めて、SRにおいて問題となっている事柄の重要性をより深く認識するに至った。こうした認識は、より多くのフランス語圏の国々に拡大されるべきである。

⇒経験の共有を促進し、同時に機能している国際的プロセスに携わる人々間のよりよいコンタクトを確保する必要がある(とりわけ、国際規格ISO 26000の開発プロセスと、SCPに関するPNUE(UNEP)によって開始されたプロセスについて)；

⇒より多くのフランス語圏の国々が国際標準化のプロセス、とりわけ、国際規格ISO 26000の開発プロセスと環境・社会的生産物のラベリングの開発プロセスに動員されるべきである。

⇒国内、地域、国際レベルで思考を深めるために、フランス語での対話の場が開発されて、その対話の場はSRとSCPに関する専門家により指導されるべきである。

各参加者は、このセミナーの最後に設定した、社会的責任に関するフランス語を話す専門家のネットワークに導かれる行動の枠組みを採択した。最初の運営委員会は、次のメンバーから構成される：

・ネットワークの会長と北アフリカの代表：Abderrahim Taïbi、SNIMA、モロッコ地域代表：サハラ砂漠以南のアフリカ：Barama SARR、ASN、セネガル、ヨーロッパ：Christian Brodhag、環境SD省、フランス、北アメリカ：Marie-France TURCOTTE、UQAM、カナダ・ケベック州、
フランス語圏を代表して：Boufeldja Benabdallah、IEPF、フランス語圏の国際機関

産業界を代表して：Didier GAUTHIER、Séché Environnement、フランス、労働組合組織：
Mariétou GUIEHOA、ニューヨーク中央労働組合、コートジボワール、
消費者協会：アフリカ（参加予定）、
ONG インターナショナル：Mass LO、Lead Africa
⇒SCP 代表：Alexandre EPALLE、持続可能な発展部門、ジュネーヴ、スイス
⇒事務局：Isabelle Blaes、CIRIDD、フランス
マラケシュの行動枠組からの次のような行動が、このネットワークのための優先事項となる：
⇒ISO 26000 の開発の枠組みの中でのやりとり、
⇒SR に関する経験の共有、
⇒各国の能力の強化



社会的責任に関する国際規格の開発についての意識改革ワークショップ

2006年4月11日-12日、ウィーン

社会的責任の認識を高めるためのワークショップが、2006年4月11日から12日まで、オーストリアのウィーンで開催された。このワークショップは、WG SR/TG 1「資金援助とステークホルダー・エンゲージメント」が準備し、オーストリア規格協会(ON)が主催したものであった。

次号でこのワークショップの報告を掲載する。

ISO/SR コミュニケーション・ニュース

小冊子『ISO 26000 の開発への参加: 社会的責任に関する国際規格』が 2006 年 4 月に刊行された。この小冊子は <http://www.iso.org/sr> で電子フォーマットの形で入手可能となる。



社会的責任に関する ISO/TMB/WG

<http://www.iso.org/sr> でさらに詳しい情報が得られる。

参加については、自国の標準化機関に問い合わせること。標準化機関については「メンバー機関」で得ることができる。<http://www.iso.org/iso/en/aboutiso/isomembers/index.html>

<http://www.iso.org/sr> の「組織」の項で、WG に参加している組織の情報も得られる

ISO/SR ニュースレターの購読(無料)については、thaisr@tisi.go.th 宛てに E メールで、ISO/TMB/WG/SR TG2 コミュニケーションの事務局に問い合わせること。